

白書院

白書院は仁和寺の伽藍の中心に位置し、儀式用の空間として、宸殿と同時に、あるいはそのかわりとして使われている。6つの部屋があり、そのうちの3部屋は東に面して開き、残り3部屋は西に面している。東面と西面の壁は深い庇の陰になっており、夏でも建物の中は涼しく保たれるとともに、建築的には宸殿とのつながりをはっきりと示している。入母屋造りの広い屋根は、建物を取り巻くように続いている壁のない縁側の上に大きく伸び、建物の内側と外側に空間的な連続性を生み出している。その他にも、この建物は随所に内と外の融合という感覚が現れている。例えば、庇を支える水平の梁は建物の小屋組まで伸び、押し出すような感覚で、周囲の風景に対する額縁のような効果を与えている。